

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	2025年8月8日
【中間会計期間】	第18期中（自 2025年1月1日 至 2025年6月30日）
【会社名】	株式会社グッドライフカンパニー
【英訳名】	GOOD LIFE COMPANY, INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高村 隼人
【本店の所在の場所】	福岡市博多区博多駅前二丁目17番8号
【電話番号】	092（471）4123（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 近松 敬倫
【最寄りの連絡場所】	福岡市博多区博多駅前二丁目17番8号
【電話番号】	092（471）4123（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 近松 敬倫
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第17期 中間連結会計期間	第18期 中間連結会計期間	第17期
会計期間	自2024年1月1日 至2024年6月30日	自2025年1月1日 至2025年6月30日	自2024年1月1日 至2024年12月31日
売上高 (百万円)	7,581	11,474	17,126
経常利益 (百万円)	784	1,466	1,511
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益 (百万円)	534	941	1,000
中間包括利益又は包括利益 (百万円)	534	943	1,000
純資産額 (百万円)	3,816	4,988	4,306
総資産額 (百万円)	12,882	18,070	19,019
1株当たり中間(当期) 純利益 (円)	127.50	227.67	237.90
潜在株式調整後1株当たり 中間(当期)純利益 (円)	124.88	218.50	233.24
自己資本比率 (%)	29.6	27.2	22.5
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,482	2,043	480
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	135	282	1,803
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,828	2,104	5,285
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高 (百万円)	3,470	4,917	5,260

(注)当社は、中間連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

（1）財政状態及び経営成績の状況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善するもとで景気は緩やかな回復基調が続いております。しかしながら、原材料価格、エネルギー価格の高騰や、米国の通商政策による影響、国際情勢の不安定感の高まりといった下振れするリスクをはらんでおり、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

不動産業界におきましては、国内及び海外の不動産投資家による投資意欲は旺盛であり、その市場動向は底堅く推移しておりますが、金融緩和政策の変更に伴う金利の上昇や、原材料、建築資材の価格高騰の影響を今後も注視していく必要があります。

このような環境のもと、当社グループは、2025年12月期の重点施策として、株式会社デベロップデザインの事業基盤を活かした首都圏エリアにおける賃貸マンション開発事業の展開を掲げております。また、事業エリア拡大に伴う開発棟数の増加に対応するため、建築技術者の採用を引き続き積極的に進めて参ります。

当中間連結会計期間においては、前連結会計年度から開発を行っていた15物件が竣工したことにより、当中間連結会計期間末において当社が企画・開発に携わった物件の竣工棟数は累計182棟、管理戸数は7,194戸となりました。

当中間連結会計期間における経営成績は、売上高11,474百万円（前年同期比51.4%増）、営業利益1,470百万円（同84.3%増）、経常利益1,466百万円（同87.0%増）、親会社株主に帰属する中間純利益941百万円（同76.1%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

（不動産投資マネジメント事業）

当事業は、アセットマネジメント事業とプロパティマネジメント事業により構成されております。

アセットマネジメント事業はさらに2つの事業体に区分されます。1つ目は、当社及び株式会社グッドライフ建設において、主に福岡、熊本、那覇及び札幌で資産形成・運用をお考えのオーナー様に対し、賃貸マンション用地の販売、設計、建築及び売買仲介サービスを提供しております。2つ目は、株式会社デベロップデザインにおいて、主に首都圏で不動産開発、設計監理及び近隣対策業務を提供しております。

また、プロパティマネジメント事業では賃貸仲介及び賃貸管理サービスを提供しております。

アセットマネジメント事業につきましては、当中間連結会計期間において15物件が竣工するとともに、海外投資家への販路拡大や首都圏エリアでの展開に向けたマーケット調査に取り組んで参りました。また、金融機関等との連携を強化し、地主様からの土地有効活用相談の獲得や顧客層拡大に注力したことから、当社開発に係る新規設計契約6件（うち用地販売を伴うもの6件）及び株式会社グッドライフ建設において建築に係る工事請負契約7件を受注し、当中間連結会計期間末における進行中の工事は17件となりました。

プロパティマネジメント事業につきましては、新築一棟マンション13物件の引渡し及び新規管理受託5物件により管理受託件数が増加しております。

この結果、不動産投資マネジメント事業の売上高は11,292百万円（前年同期比51.6%増）、セグメント利益は1,530百万円（同78.8%増）となりました。

（エネルギー事業）

当事業は、株式会社グッドライフエネルギーにおいて、主に当社が管理を行う物件の入居者様に対し、プロパンガスの供給を行っております。

当中間連結会計期間末におけるプロパンガス供給棟数は152棟となっております。

この結果、エネルギー事業の売上高は175百万円（前年同期比31.2%増）、セグメント利益は10百万円（同570.1%増）となりました。

財政状態については、次のとおりであります。

（資産）

当中間連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ1,198百万円減少し、14,897百万円となりました。主な要因は、仕掛販売用不動産が2,714百万円、現金及び預金が343百万円及び契約資産が287百万円減少した一方、販売用不動産が1,258百万円及びその他の流動資産が741百万円増加したことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ250百万円増加し、3,172百万円となりました。主な要因は、有形固定資産が178百万円及び投資その他の資産が105百万円増加したことによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べ948百万円減少し、18,070百万円となりました。

（負債）

当中間連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ2,494百万円減少し、7,615百万円となりました。主な要因は、短期借入金が2,285百万円、1年内返済予定の長期借入金が597百万円及び工事未払金が422百万円減少した一方、契約負債が867百万円増加したことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ863百万円増加し、5,466百万円となりました。主な要因は、長期借入金が934百万円増加した一方、その他の固定資産が99百万円減少したことによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,630百万円減少し、13,082百万円となりました。

（純資産）

当中間連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ681百万円増加し、4,988百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する中間純利益の計上により利益剰余金が941百万円増加した一方、自己株式の取得により306百万円減少したことによります。

（２）キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末の5,260百万円に比べ、343百万円減少し、4,917百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の増加は2,043百万円となりました。これは主に、仕掛販売用不動産の減少額2,714百万円、税金等調整前中間純利益1,462百万円及び契約負債の増加額867百万円の資金の増加と、販売用不動産の増加額1,258百万円、前渡金の増加額1,019百万円及び法人税等の支払額722百万円の資金の減少によります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の減少は282百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出224百万円、敷金及び保証金の差入による支出72百万円の資金の減少と、保険の解約による収入24百万円の資金の増加によります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の減少は2,104百万円となりました。これは主に、短期借入金の純減額2,285百万円及び長期借入金の返済による支出862百万円の資金の減少と、長期借入れによる収入1,200百万円の資金の増加によります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当中間連結会計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当中間連結会計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの主な資金需要は、用地仕入資金、建築資金、設備投資資金及び運転資金であります。それらの財源については、自己資金及び金融機関からの借入により調達しております。

このうち、金融機関からの借入に関して、収益用不動産の開発に係る用地仕入資金については、短期借入金で調達し、賃貸用不動産の取得資金、収益用不動産を建売にて販売を行う場合の用地仕入資金及び賃貸マンション建設資金、エネルギー事業におけるガス供給設備取得のための設備投資資金及びM & Aに係る資金については、長期借入金での調達を行っております。

当社グループは、その健全な財政状態、営業活動によりキャッシュ・フローを生み出す能力及び借入により、当社グループの成長を維持するため将来必要な用地仕入資金、建築資金、設備投資資金及びM & Aに係る資金を調達することが可能と考えております。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	13,200,000
計	13,200,000

【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (2025年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2025年8月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,306,200	4,306,200	東京証券取引所 スタンダード市場	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 なお、単元株式数は100株であります。
計	4,306,200	4,306,200	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2025年8月1日からこの半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2025年1月1日～ 2025年6月30日 (注)1	8,400	4,306,200	3	74	3	258
2025年5月1日 (注)2	-	4,306,200	51	23	-	258

(注)1.新株予約権の行使による増加であります。

2.2025年3月26日開催の第17回定時株主総会の決議に基づき、2025年5月1日付で減資の効力が発生し、資本金の額51百万円(減資割合69.2%)を減少し、その他資本剰余金へ振り替えたものであります。なお、払い戻しを行わない無償減資であります。

(5) 【大株主の状況】

2025年 6 月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己 株式を除く。) の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
高村 隼人	福岡県福岡市早良区	2,637,000	64.08
三菱ＵＦＪｅスマート証券株式会社	東京都千代田区霞が関三丁目 2 番 5 号	337,900	8.21
蔭山 恭一	滋賀県栗東市	215,300	5.23
佐方 修	熊本県熊本市西区	185,700	4.51
近松 敬倫	熊本県熊本市西区	113,000	2.74
株式会社ＳＢＩ証券	東京都港区六本木一丁目 6 番 1 号	35,638	0.86
むさし証券株式会社	埼玉県さいたま市大宮区桜木町四丁目 333番地13	33,500	0.81
高田 瑠弥	滋賀県草津市	32,500	0.78
株式会社三津野建設	熊本県熊本市東区健軍本町23番 5 号	30,000	0.72
分家 秀泰	東京都目黒区	22,000	0.53
計	-	3,642,538	88.51

(注) 上記のほか当社所有の自己株式191,182株があります。

(6) 【議決権の状況】
【発行済株式】

2025年 6 月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式 (自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式 (その他)	-	-	-
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 191,100	-	-
完全議決権株式 (その他)	普通株式 4,112,600	41,126	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 2,500	-	-
発行済株式総数	4,306,200	-	-
総株主の議決権	-	41,126	-

(注) 「単元未満株式」の普通株式には、自己株式82株が含まれております。

【自己株式等】

2025年 6 月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
(自己所有株式) 株式会社グッドライフ カンパニー	福岡市博多区博多駅前 二丁目17番 8 号	191,100	-	191,100	4.43
計	-	191,100	-	191,100	4.43

(注) 「自己名義所有株式数」及び「所有株式数の合計」の欄に含まれない単元未満株式が82株あります。なお、当該株式は上表 の「単元未満株式」の欄に含まれております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当中間会計期間における役員の異動はありません。

なお、当中間会計期間後、当半期報告書提出日までの役職の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
取締役	取締役 管理本部長	近松 敬倫	2025年 7 月 1 日

第4【経理の状況】

1．中間連結財務諸表の作成方法について

当社の中間連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号の上欄に掲げる会社に該当し、連結財務諸表規則第1編及び第3編の規定により第1種中間連結財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間（2025年1月1日から2025年6月30日まで）に係る中間連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる期中レビューを受けております。

1 【中間連結財務諸表】

(1) 【中間連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年 6 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,272	4,929
売掛金	182	157
契約資産	896	608
販売用不動産	5,216	6,474
仕掛販売用不動産	3,291	576
未成工事支出金	355	526
その他	883	1,625
貸倒引当金	1	1
流動資産合計	16,096	14,897
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,242	1,463
工具、器具及び備品（純額）	12	13
車両運搬具（純額）	11	9
土地	268	268
リース資産（純額）	53	50
建設仮勘定	79	39
有形固定資産合計	1,667	1,845
無形固定資産		
のれん	777	739
その他	9	15
無形固定資産合計	787	754
投資その他の資産		
繰延税金資産	93	127
その他	394	465
貸倒引当金	20	20
投資その他の資産合計	467	572
固定資産合計	2,922	3,172
資産合計	19,019	18,070

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年 6 月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	28	39
工事未払金	1,418	995
短期借入金	4,907	2,622
1年内返済予定の長期借入金	1,070	472
リース債務	15	13
契約負債	1,249	2,116
未払法人税等	723	527
賞与引当金	51	49
完成工事補償引当金	-	4
預り金	354	356
その他	290	416
流動負債合計	10,109	7,615
固定負債		
長期借入金	4,434	5,369
リース債務	43	42
退職給付に係る負債	7	8
繰延税金負債	12	41
その他	104	5
固定負債合計	4,603	5,466
負債合計	14,712	13,082
純資産の部		
株主資本		
資本金	71	23
資本剰余金	562	617
利益剰余金	3,745	4,687
自己株式	100	406
株主資本合計	4,280	4,921
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	-	1
その他の包括利益累計額合計	-	1
新株予約権	26	65
純資産合計	4,306	4,988
負債純資産合計	19,019	18,070

(2) 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位 : 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 1 月 1 日 至 2024年 6 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 1 月 1 日 至 2025年 6 月30日)
売上高	7,581	11,474
売上原価	6,410	9,354
売上総利益	1,171	2,119
販売費及び一般管理費	373	648
営業利益	797	1,470
営業外収益		
受取利息及び配当金	0	3
金利スワップ評価益	2	0
受取補償金	-	27
補助金収入	2	5
保険解約返戻金	-	14
固定資産売却益	3	-
その他	1	8
営業外収益合計	10	60
営業外費用		
支払利息	22	61
支払手数料	0	2
その他	0	0
営業外費用合計	23	63
経常利益	784	1,466
特別損失		
固定資産除売却損	-	4
特別損失合計	-	4
税金等調整前中間純利益	784	1,462
法人税、住民税及び事業税	243	527
法人税等調整額	6	7
法人税等合計	249	520
中間純利益	534	941
親会社株主に帰属する中間純利益	534	941

【中間連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 1 月 1 日 至 2024年 6 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 1 月 1 日 至 2025年 6 月30日)
中間純利益	534	941
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	1
その他の包括利益合計	-	1
中間包括利益	534	943
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	534	943

(3) 【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位 : 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 1 月 1 日 至 2024年 6 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 1 月 1 日 至 2025年 6 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	784	1,462
減価償却費	53	74
のれん償却額	-	38
株式報酬費用	-	38
賞与引当金の増減額 (は減少)	6	1
退職給付に係る負債の増減額 (は減少)	-	0
完成工事補償引当金の増減額 (は減少)	9	4
受取利息及び受取配当金	0	3
支払手数料	0	2
支払利息	22	61
金利スワップ評価損益 (は益)	2	0
為替差損益 (は益)	-	0
固定資産売却損益 (は益)	3	-
補助金収入	2	5
保険解約返戻金	-	14
売上債権及び契約資産の増減額 (は増加)	390	312
販売用不動産の増減額 (は増加)	1,943	1,258
仕掛販売用不動産の増減額 (は増加)	730	2,714
未成工事支出金の増減額 (は増加)	0	171
仕入債務の増減額 (は減少)	75	411
前渡金の増減額 (は増加)	78	1,019
契約負債の増減額 (は減少)	184	867
預り金の増減額 (は減少)	1	1
その他	92	119
小計	1,188	2,809
利息及び配当金の受取額	0	2
利息の支払額	14	45
法人税等の支払額又は還付額 (は支払)	279	722
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,482	2,043
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	141	224
有形固定資産の売却による収入	7	-
投資有価証券の売却による収入	-	3
無形固定資産の取得による支出	1	7
敷金及び保証金の差入による支出	0	72
敷金及び保証金の回収による収入	0	0
保険の解約による収入	-	24
その他	-	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	135	282
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (は減少)	2,989	2,285
長期借入れによる収入	932	1,200
長期借入金の返済による支出	1,107	862
株式の発行による収入	21	6
自己株式の取得による支出	0	306
自己株式取得のための預け金の増減額 (は増加)	-	155
その他	7	10
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,828	2,104
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	1,210	343
現金及び現金同等物の期首残高	2,259	5,260
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,470	4,917

【注記事項】

(中間連結貸借対照表関係)

保証債務

家賃滞納保証業務に係る保証極度額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年 6 月30日)
家賃滞納保証業務	1,530百万円	1,686百万円

連結会社以外の会社の金融機関からの借入に対する保証債務額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年 6 月30日)
株式会社 D ・ A	63百万円	- 百万円
T2Capital 合同会社	107	99

(中間連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年 1 月 1 日 至 2024年 6 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 1 月 1 日 至 2025年 6 月30日)
役員報酬	53百万円	52百万円
給与及び手当	102	161
賃借料	20	27
賞与引当金繰入額	15	22

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年 1 月 1 日 至 2024年 6 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 1 月 1 日 至 2025年 6 月30日)
現金及び預金勘定	3,470百万円	4,929百万円
預入期間が 3 ヶ月を超える 定期預金及び定期積金	-	12
現金及び現金同等物	3,470	4,917

(株主資本等関係)

前中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2024年12月19日及び2025年2月14日開催の取締役会決議に基づき、自己株式104,400株の取得を行っております。この結果、当中間連結会計期間において自己株式が306百万円増加し、当中間連結会計期間末において自己株式が406百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	中間連結 損益計算書 計上額 (注)3
	不動産投資 マネジメン ト事業	エネルギー 事業	計				
売上高							
完成工事高	3,626	-	3,626	-	3,626	-	3,626
土地売上高	2,117	-	2,117	-	2,117	-	2,117
建売売上高	860	-	860	-	860	-	860
プロパティマネジメ ント事業収入	526	-	526	-	526	-	526
エネルギー事業収入	-	133	133	-	133	-	133
その他	316	-	316	-	316	-	316
顧客との契約から生 じる収益	7,447	133	7,581	-	7,581	-	7,581
外部顧客への売上高	7,447	133	7,581	-	7,581	-	7,581
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	7,447	133	7,581	-	7,581	-	7,581
セグメント利益 又は損失()	855	1	857	0	857	59	797

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 59百万円には、セグメント間取引消去3百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 62百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失()は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当中間連結会計期間（自 2025年1月1日 至 2025年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 （注）1	合計	調整額 （注）2	中間連結 損益計算書 計上額 （注）3
	不動産投資 マネジメン ト事業	エネルギー 事業	計				
売上高							
完成工事高	4,475	-	4,475	-	4,475	-	4,475
土地売上高	2,813	-	2,813	-	2,813	-	2,813
建売売上高	2,679	-	2,679	-	2,679	-	2,679
プロパティマネジメ ント事業収入	699	-	699	-	699	-	699
エネルギー事業収入	-	175	175	-	175	-	175
その他	554	-	554	28	583	22	560
顧客との契約から生 じる収益	11,222	175	11,398	28	11,426	22	11,404
その他の収益	70	-	70	-	70	-	70
外部顧客への売上高	11,292	175	11,468	5	11,474	-	11,474
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	22	22	22	-
計	11,292	175	11,468	28	11,497	22	11,474
セグメント利益 又は損失（ ）	1,530	10	1,540	8	1,549	78	1,470

（注）1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益又は損失（ ）の調整額 78百万円には、セグメント間取引消去 1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 80百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失（ ）は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

（１株当たり情報）

１株当たり中間純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後１株当たり中間純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年 1月 1日 至 2024年 6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 1月 1日 至 2025年 6月30日)
(１) １株当たり中間純利益	127円50銭	227円67銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益(百万円)	534	941
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 中間純利益(百万円)	534	941
普通株式の期中平均株式数(株)	4,195,940	4,137,377
(２) 潜在株式調整後１株当たり中間純利益	124円88銭	218円50銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 中間純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(株)	88,191	173,553
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後１株当たり 中間純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会 計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

２【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年 8 月 8 日

株式会社グッドライフカンパニー

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

福岡事務所

指定有限責任社員
業 務 執 行 社 員 公認会計士 照屋 洋平

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社グッドライフカンパニーの2025年1月1日から2025年12月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間（2025年1月1日から2025年6月30日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社グッドライフカンパニー及び連結子会社の2025年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

中間連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、中間連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 中間連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは期中レビューの対象には含まれていません。